



今回は メキシコ留学 の報告です。

◇ 上垣菜穂さんのメキシコ留学体験記！

私は、高校2年の夏から1年間、AFS 留学生としてメキシコに留学しました。今回は私の現地での経験や学んだことについて書きたいと思います。

メキシコというと、きっと遠くてあまり馴染みのない国だという印象があると思います。私のメキシコに対する第一印象は、陽気でフレンドリー、日本で報道されるニュースは物騒な事件が多いという印象でした。

まず、なぜメキシコを選んだのかについてです。留学したいと思った時から、「今を逃したら行かないようなところに行きたい」と考えており、さらに話者が多いスペイン語を習得したいと思ったことと、貧富の差があるといわれる国に実際に行ってみたいということが主な理由でした。

次に、留学で得たものについてです。1年間を通して学んだものや、成長したと感じることは多く、これらは私の人生の一部となりました。私は、留学の良さは異文化の中に完全に浸れること、そして新しい価値観やものの見方を発見できることだと思います。また、世界中に多くの仲間ができることもかけがえのない経験です。毎日が新しいことで溢れていました。異文化を感じたことといえば、まず、メキシコ人はすごく人との距離が近く、愛情表現がストレートです。ホストファミリーや学校の友達はもちろん、街で初めて出会った人にもハグしてキスをします。いつでも、mi amor(私の大好きな人)や te quiero! (愛してるよ) という会話をします。素敵な文化で私のメキシコの好きなのところの1つです。

また、fiesta と呼ばれる、パーティーをたくさんしました。時には夜遅くまで、友達と、もしくは家族や親せきと色んな話をしたりゲームをしたりという時間を多く過ごしました。メキシコで過ごすこのような時間は、日本にいたときよりゆったりしていても楽しい時間でした。メキシコには“ahorita”

(いま) という単語があります。“Ahorita me voy”(いま行くね)と言われれば、5分または1時間を表してしまえます。メキシコの時間感覚のおおらかすぎる文化に初めは困ったこともありましたが、今では ahorita でなんでも通じた生活が懐かしいです。

また、留学中の1年間は、世界中の人と知り合えた1年間でした。AFS で企画された Ruta Maya というツアーに参加し、メキシコの遺跡や有名な場所を観光しました。ここでも、多くの仲間ができ、夜遅くまで終わらないパーティーでみんなと踊ったり、いろんなことを話したりしました。英語でなく完全スペイン語でみんなと話ができ、感動しました。ここでできた仲間たちとは今でも交流が続いています。こうして世界と関わりを持てることは、とても大切で留学の特権だと思います。さらに、多くの活動に挑戦したこと、家族や友達と離れて外国で生活したことは、私に自信を与えました。最初あんなにも話せなかったスペイン語が、1年後には思い通りに話せるようになり、0人だった友達が数えきれないほどになっていました。何度も挫けたし辛いこともありましたが、努力した結果だと思うのですごく嬉しいです。

また、私はメキシコで課外活動としてボランティア活動も行って、その活動が自分にとっ



て意味のある出来事でした。メキシコには大きな経済格差があり、支援を欲している人がたくさんいます。彼らを対象にした食事の提供や、バザーの手伝いをしました。彼らを間近で見て、私ができることをしなければと思いつつ、できないことばかりで苦しい思いをしました。そんな時、彼らがくれるありがたいという言葉が本当に嬉しかったです。今回の留学体験を通して、私は将来、貧困などの苦しい境遇にいる人を助けるため国際的に活躍できる人材になりたいと思いました。

メキシコを発つ前の日、AFS の仲間が言っていた言葉があります。

“No es un año de una vida, es una vida de un año.”

(これは人生のなかのある1年ではなく、1年のなかのある一つの人生だ)

この言葉の通りを生きてきた留學生活だったので、私はこの言葉が大好きです。これからも私が得たものを活かしていきたいです。貴重な体験をありがとうございました！



クラスみんなで日本体験！



ボランティア活動！！

有名な Chichen Itzá で！



楽しかった Fiesta！！